

第5章 今後の課題

本報告書では評価システムのあり方の基礎的な問題のいくつかについて検討を行っている。今後の課題はこれらの問題に関する具体的な解答を求めることであろう。このことに関しては、第1章から第4章までのすべてに、多かれ少なかれ今後の課題が残されているといえよう。

第1章で取り上げた“音色・音質”の考え方については、委員会では大略の意見の一致を得ることが出来た。しかし今後、このような“音色・音質”の考え方に対して、世間一般の同意を得なければならない。このことは今後の重要な課題の一つである。

また、音の評価システム構成についての今後の課題は下記のようなものと考えられる。

1. 評価の目的に対して最も妥当な評価方法を選択し、これに用いる評価尺度を構成する具体的方法。
2. 評価尺度により音の評価を行う具体的方法。
3. 評価基準の具体的決定方法。
4. 評価値に対する音波の性質を、対象としているシステムに関して必要な精度で求める方法。これには、発音源の発音条件・音をきめる総合的な音波の性質の検討などがふくまれる。
5. 評価に関する音波の性質の許容範囲の決定方法。

なお、以上の検討を行いその結果に基づいて、評価の標準化を行うことも今後の重要な課題となるものと考えられる。

今後、上述の各項目に関する具体的な内容について、入手できる資料を集め、音の評価システムの具体化について検討を行う予定である。